関大

発行所
関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35号
発行人 神屋敷民蔵
電話大阪(388)1121代表
振替口座大阪55594番

(心斎橋店・京橋店)
コンタクトレンズ
登録 商標
メガネ
大学堂
心斎橋店(271)7891
京橋店(353)2419
虹のまち店(213)1650
阪神百貨店(345)1201

家族連れの楽しい一日

校友総会ひらく

秋晴れに八百名が参加

昭和四十八年度校友総会は、十月十四日、大阪迎賓館"太閤園"で盛大に開催された。当日は"明るく楽しい総会"という趣旨にふさわしく校友小野栄一君の特別賛助もあり参加者は未曾有の八百名を記録。家族連れの華やいだふん囲気のもとに、深秋の一日を過ごした。

昭和48年度校友総会であいさつする樫本会長

当日は、前夜来の秋雨も上がり緑に囲まれた会場"太閤園"の自然美も一段と映え、秋晴れのもと苑内を散策する家族連れの目立つ開会前のひとときであった。

総会は定刻十一時半に開会、千厳総務副部長の司会で進められ、大島副会長の開会宣言、学歌斉唱来賓紹介のあと、樫本校友会長から

「年一回開催する校友総会は校友の祭典であり、会員の親睦を中心として相互の気持の通じ合うところに意義がある。その意味から明るい楽しい総会を趣旨とした本日の催しが、実り多きものなるよう協力をお願いする」と挨拶があり次いで叙勲の栄に浴された校友、和田豊二、植田完治、大江二氏を。また母校学長改選に伴い退任された広瀬捨三前学長のほか、本紙連載の"関西大学を築いた人々"の刊行に当たり執筆編集の労を願った文学部横田健一、薗田香融両教授に対して感謝状を贈り謝意を表した。

また恒例の組織の顕彰では、同期会、各種団体を含め十二団体で、ほんとうに、あんたというひとは、その通りのひとだよ。

明石新学長のあいさつ

同期会、団体も顕彰

このあと校友会組織の顕彰につつり、多年組織活動顕著な地域支部と個人功労者のほか、本年は同期会、各種団体についても範囲を広げ別掲の通り感謝状を贈った。

続いて校友会会則第23条により総会事項となっている昭和48年度会務報告を田村総務部長から書面で報告があり、満場一致承認された。

次に母校では、学長改選をはじめとし、大学院の学舎、研究施設の整備が進められているが、その近況について、久井理事長、明石新学長から報告があった。

久井理事長は、大衆化、技術化専門化された大学の使命について語り、真理の探求に徹する姿勢こそ最も希求される基本であると結んだ。

また明石三郎新学長は「私が昭和二十二年率職以来、関西大学へ愛着を感じているゆえんのものは関西大学の持つ民主的な空気にあったと思う。私は関西大学に、研究に、熱心なアカデミックな空気を盛上げて行きたい。これは関西大学の庶民性、自由な空気ともマッチするものである」と挨拶のあと、体育振興を含めて栄光ある伝統的な気風の育成について所信を語られ、今後の協力を要請された。

次いで校友北条秀司氏(劇作家)の本年度菊地寛賞受賞に対し、校友総会の名において祝意を伝える旨の総会決議がなされ、当日の総会日程を終了に当たり、坂本副会長から閉会挨拶があり会を閉じた。

新卒山中君が金的

第二部懇親会には、アトラクションに校友小野栄一君が特別賛助出演してひとときを歌手鶴田浩二に戻り、彼のヒットナンバーからブルース、軍歌などとメドレーでつづる歌謡ショーで総会に華を添えた。

フルバンド十八名、専属司会浜ひろしの軽妙な紹介でつづるヒットナンバー二十二曲。歌謡界に多年にわたり君臨する"鶴田浩二"の持ち味をいかんなく発揮し、予定時間を越す五十分の大熱演に参加者の感動を呼んだ。

アトラクション第二弾"福引"では、景品総数二百三十二点に一喜一憂。特賞のソニーカラーテレビは、四十八年三月の新卒業生山中浩史君(神戸市役所理財局管財課勤務)が見事金的を射止めた。

以上の通り本年度の総会は、親睦を中心とした"明るい楽しい総会"として終始し、十月の好季節の日曜日、八百余名の家族連れを含めた校友の参加で、予期以上の盛り上りを見せ、大成功裡に終了した。

秋の叙勲者

(敬称略)

▽勲二等旭日重光章
森川 太郎(昭3大経)
元学長、関大名誉教授

▽勲二等瑞宝章
井上 和夫(大14専商)
元簡裁判事
井上松治郎(大15大法)
元地裁判事

▽勲四等旭日小綬章
石橋 利之(明41専法)
弁護士

▽勲五等双光旭日章
丸山喜三造(昭7大法)
弁理士

▽勲五等瑞宝章
橋本 太一(昭2専経)
兵庫県貸家組合連合会長

褒章受章

▽紺綬褒章
小鳥龍太郎(昭9大法)
小鳥商事㈱社長 校友会同倍野支部長

▽厚生大臣表彰(社会福祉)
荒川甫一郎(昭8大法)
㈱大阪化粧品商業社長 校友会寝屋川支部長

48年度司法試験合格者

昭和四十八年度司法試験合格者の本学関係者はいかの五氏。

石村 太郎(昭42学 法)
祝前 俊宏(昭45学 法)
小西 清茂(昭36学 法)
辻内 隆司(昭42学 法)
松本 昌三(昭43学 法)

感謝状贈呈の組織並に功労者

▽地域支部 大阪西支部

▽同期会 十三会(大13専)昭三会(昭3専)尚志会(昭4大)昭六会(昭6大)祥久会(昭9大)友粋会(昭13専2商)春秋会(昭14大)十七会(昭17大)千里山十八会(昭18大)

▽各種団体 関西大学手成会 関西大学年輪会

▽功労者 谷口隆佳(宝塚支部長)中沢俊雄(近鉄支部長)

▽その他 広瀬捨三前学長、横田健一、薗田香融両文学部教授 久五郎、太田元、吉田鹿之助の各氏に対し栄誉をたたえ、出席者全員が祝意を表し、またこのたび校友会で刊行した「関西大学を築いた人々」の執筆編集にご尽力の横田健一、薗田香融両教授に対しその功績をたたえ感謝状を贈り謝意を表した。

一方、このたび母校学長の任期満了に伴う改選により退任された広瀬捨三前学長に対しては、任期中校友会の諸会合には、つとめて参画いただき校友と母校の交流に積極的な役割を果たされた功績をたたえ、校友会総会の総意により感謝状を贈り謝意を表することになった。

家族連れの華やいだふんいきがいっぱいの明るく楽しい総会会場

お時間拝借

校友あれこれ対談

俳優・歌手 鶴田浩二氏

聞き手 吉田三七雄

—24—

鶴田浩二氏

吉田 鶴田サン、この間の校友総会では有難う。大変な熱演でしたねえ。なつかしのメロディーから軍歌に移るころから、万場の校友があなたの歌に合わせて手をたたき、まさに感激のルツボになってしまった。ぼくも思わず手をたたいて歌いましたよ。

鶴田 有難うございます。ぼくもうれしかったです。

吉田 いったい、何曲歌ったのかな。

鶴田 全部で二十曲でした。

吉田 うーん、二十曲ねえ。ツー・コーラスだから四十というわけか。えらいサービスやねえ。(笑い) 校友総会やからというので、特に熱を入れたというわけ?

鶴田 ちょっと待って下さい。先輩のお言葉を返すようで申しわけありませんが、それは違います。校友総会の席上で歌わせてもらったということは、それはほんとにうれしいことでした。しかし、そのことを意識して、特に熱を入れたといわれちゃ困るんです。生意気な奴だとしかられるかも知れませんが、ぼくは、お客さんがたとえ十人のときでも、何万人のときでも、ステージに立てば、いつも同じ気持で、精いっぱい歌っているんです。だから、校友総会だから、特に熱を入れたということじゃありません。ぼくという男は、手を抜いたり、特に熱を入れたりということが出来るような、そんな器用な男じゃないんです。

吉田 いやぁ、これはぼくが悪かった。長い間たくさんの芸能関係の人たちとつき合っていたぼくが、まことにウカツな言葉だった。カンベンしてくれ給え。(笑い)

鶴田 なんだか、おだてられているような、けなされているような、変な具合ですねえ。(笑い) ぼくは、すぐこんな生意気なようなことをいうので、すごく誤解されることがあるんです。

吉田 いや、それでいいんだえ。(笑い)

古い奴だと笑わば笑え

遺骨収拾に燃える執念

よ。あんたは、ウソのつけない男なんだ。ほんとうの義理人情を知っているひとなんだよ。

鶴田 自分でもウソのつけない奴だと思っています。(笑い) だから、あいつは礼儀を知らん奴だ、生意気な奴だと、なんどたたかれたか分りません。それは、ウソがつけなかったからなんです。ウソをつくのがきらいだからです。やっぱりぼくは、古い奴なんでしょうねえ。

吉田 古い奴といえば、あんたのヒット曲の一つの「傷だらけの人生」の中で、セリフのところがあるでしょ。そら、「古い奴だとお思いでしょうが、古い奴こそ新しいものを欲しがるもんでございます。どこに新しいものがございましょう。生まれた土地は荒れ放る、ただ一つの道だと思いこんでいたのです。やっと操縦桿が握れるようになり、出撃という直前に日本は敗れました。そして、ぼくら達は、ゴミ屑のように放り出されたキッカケは、いったい、どういうことだったんです?

鶴田 ひとことでいえば、生きてゆけなかったからです。ぼくは、関大の専門部一年で海軍予備学生を志願したんです。十四期予備学生でした。国のために、戦いはガキの頃から知っていたもんですから、高田のオヤジに拾ってもらって芸能界に足を踏み入れることになったんです。そして、昭和二十三年に松竹に入社、そののち東宝に移り、昭和三十五年に今の東映に転籍したというわけです。

吉田 松竹に入社されて、最初のデビュー作品は「遊侠の群れ」でしたね。覚えています。歌はずっとヒットですね。これも極め付け人気もやりました。飛行機乗りを志願した若者が、国が敗れたとたん、生きてゆくためにはこんな仕事しか無かったんです。そんなときに、浜松にやってきたのが高田のオヤジでした。

鶴田 高田浩吉さんですね。

吉田 そうです。高田のオヤジの持ち味をいかんなく発揮し、予定時間を越す五十分の大熱演に参加者の感動を呼んだ。

アトラクション第二弾"福引"では、景品総数二百三十二点に一喜一憂。特賞のソニーカラーテレビは、四十八年三月の新卒業生山中浩史君(神戸市役所理財局管財課勤務)が見事金的を射止めた。

以上の通り本年度の総会は、親睦を中心とした"明るい楽しい総会"として終始し、十月の好季節の日曜日、八百余名の家族連れを含めた校友の参加で、予期以上の盛り上りを見せ、大成功裡に終了した。

秋の叙勲者

(敬称略)

▽勲二等旭日重光章
森川 太郎(昭3大経)
元学長、関大名誉教授

▽勲二等瑞宝章
井上 和夫(大14専商)
元簡裁判事
井上松治郎(大15大法)
元地裁判事

▽勲四等旭日小綬章
石橋 利之(明41専法)
弁護士

▽勲五等双光旭日章
丸山喜三造(昭7大法)
弁理士

▽勲五等瑞宝章
橋本 太一(昭2専経)
兵庫県貸家組合連合会長

褒章受章

▽紺綬褒章
小鳥龍太郎(昭9大法)
小鳥商事㈱社長 校友会同倍野支部長

▽厚生大臣表彰(社会福祉)
荒川甫一郎(昭8大法)
㈱大阪化粧品商業社長 校友会寝屋川支部長

48年度司法試験合格者

昭和四十八年度司法試験合格者の本学関係者はいかの五氏。

石村 太郎(昭42学 法)
祝前 俊宏(昭45学 法)
小西 清茂(昭36学 法)
辻内 隆司(昭42学 法)
松本 昌三(昭43学 法)

感謝状贈呈の組織並に功労者

▽地域支部 大阪西支部

▽同期会 十三会(大13専)昭三会(昭3専)尚志会(昭4大)昭六会(昭6大)祥久会(昭9大)友粋会(昭13専2商)春秋会(昭14大)十七会(昭17大)千里山十八会(昭18大)

▽各種団体 関西大学手成会 関西大学年輪会

▽功労者 谷口隆佳(宝塚支部長)中沢俊雄(近鉄支部長)

▽その他 広瀬捨三前学長、横田健一、薗田香融両文学部教授

経・商は80%を越す

好調な48年度の就職状況

昭和四十八年度卒業生の就職状況は、就職課から発表された資料によると、九月末日現在で、一部七六・五%、二部五六・三%と好調である。

今年の就職は、混乱の中で行われてきたこ数年の状態とは異なり、五月一日以前には会社訪問就職活動をしてはならない、七月一日以前に採用にまつわる行為をしてはならないという新しい秩序によって行われた。これは就職によって教育の場が、早くからしかも長期にわたって売されることを少なくしようと努力してきた大学にも、他社に先がけて優秀な学生を多くと神経をすり減らす企業にも歓迎されたようである。

行事と集い

- **京都支部総会**11月17日(土) 午後5時半 四条"東華菜館"。
- **弁理士関大会叙勲祝賀会** 11月19日(月)午後6時 桜橋第1ビル"北京"。
- **関大大阪倶楽部秋季総会** 11月23日(金)午前9時 ホテル阪神前集合 三輪明神 多武峰
- **関西大学会計人クラブ** 11月29日(木)午後5時 "ロイヤルホテル"。
- **第四回 事業部 見学会** 12月2日(日)午前8時半 ホテル阪神前集合 "二つの飛鳥"めぐり

49年度入試期日決まる

昭和49年度入学試験期日は次のとおり。

二月一日(金) 社会学部
二月二日(土) 法学部 西学部
二月三日(日) 工学部 文学部
二月四日(月) 経済学部
二月五日(火)
二月六日(水)

地方試験は、次の八会場でおこなわれる。

二月三日(日)
金沢・名古屋・高松・広島・福岡・鹿児島・札幌・東京

あなたの画く明日の関大像

新年号にお寄せ下さい

明治十九年、関西で唯一の法律学校として創立された母校関西大学は、夜間授業の寺子屋から今日の総合大学に発展し、二年後には創立九十周年を迎えようとしています。

さて、機関紙"関大"編集部では、新年号(四十九年一月一日発行)の一面に「私の初夢—明日の関大像」と題して、校友諸氏に未来の関大のイメージを描いていただく特集を企画いたしました。

百周年…二百周年…と夢は大きく広がります。自由な発想で関大の未来像を描いて下さい。

機関紙"関大"は会校友の対話の場としての使命を果たすよう努めています。皆さんの積極的な参画により紙面が充実できるよう協力をお願いいたします。

記

スペース 二〇〇字以内
締め切り 十一月三十日必着

なお、原稿は編集部で添削することがあります

564吹田市山手町三丁三五
関西大学校友会
機関紙"関大"編集部

葦の雲

菊薫るよい時期(十月十四日)に、恒例の昭和四十八年度校友総会が、大阪の名園"太閤園"で開催された。会場をはみ出る多数の出席者をえて、盛会裡に終了した。まことにご同慶の至りである。年一回の総会であるので、筆者も楽しみに参加し、また出席してよかったと思っている。今一つ欲をいえば、折角の校友総会に学内教職員の出席が少なかったことである。いろいろ都合もあることと思うが、校友と教職員とが一体となって母校の発展を願うならば、多数の出席を得て交流を深めたい と願うものである▼さすがに、歴史が古くなると卒業生の年令の差が大きく、親子孫三代の校友もそのうちに珍しくなくなることだろう。女性校友もぼつぼつ目だつようになって、総会のふん囲気もかわってきた。やはり世代の移りかわりを感じる▼さて文部省は、去る十月一日に茨城県の筑波山の麓に新しい大学として筑波新大学を創設し、明年四月より逐次開設するという。とにかくキャンパスの広さが、東大の五倍もあり、設備も最新とか。財源不足で悩む私立大学にとっては、なんとも羨ましい話。さて中味だが、特色の一つとして現行の学部制を廃し、学群、学系という制度を設けて、教育と研究に弾力性をもたせようとしている。早急に成果を期待するのは無理としても、既設大学で教育を受ける者との格差といったものは、どうなるのだろうか▼むしろ古くは高等教育に重大な責任を果たす任務を負わされているが、教育実現の裏付けとなるべき財政は、いずこも火の車である。借金経営にも限界がきている。関係者のご苦労は並たいていではない▼一年をふりかえれば、本年も物価と公害問題に悩まされてきた。どうも、どれ一つとして、明るい見通しはないが、何れにもせよ、どうなれば、われわれ人間が作っているものばかりである。人間だけが持つすばらしい知恵で、解決できることを確信したい。

カタノヨイ カタノコラヌ カタノクズレヌ カタノ洋服店
最高のおくりもの カタノ紳士服
片野洋服店
大阪市東区北浜三丁目北浜通 電話大阪(231)〇五六五～七
大阪駅前店 第一生命ビル専門大店 電話 大阪(341)〇七九二
上六近鉄百貨店紳士服サロン テーラーカタノ

あなたにしあわせを……
幸福相互銀行
本店 大阪市西区土佐堀 電話 大阪(444)1551番

プレゼントのお考えはきまりましたか
ビジネスバッグ・旅行カバン
GIFT 贈答好適
サイフ・ハンドバッグ・カバン専門卸
ご一報者にカタログ急送
K.K廣島屋本店
取締役社長 蔵田廣造
(昭和25年 経済学部卒)
〒541 大阪市東区博労町1—26
TEL 06—261—2431

運転免許は校友がお世話する
"大阪城東の"
公安委員会指定
都島自動車教習所
大阪市城東区別所町157
〒536 TEL(06)912—7171
担当 太田清太郎(昭29.学2法)
優待証 関大
校友、在学生、又は校友紹介の方は左の優待証を切り取り持参下さい。授業料割引きの特典あり。

大きな実りを…

預金も/信託も/不動産も…
大和銀行

電子技術で未来をひらく 松下通信工業
安全で快適な生活をになう——!
ナショナル住宅総合インターホン
1台5役の働きもの
ナショナル住宅総合インターホンは、訪問者と通話ができる玄関電話、風呂の水位や温度・漏水を感知する風呂センサ、屋外への非常警報、異常高温や火災を感知する定温式スポット型感知器、窓やドアからの不法侵入者をとらえる防犯・キースイッチなど、近代生活には欠かせない機能を備えています。
●VL-140(主装置・ドアホン子機・風呂センサ)¥29,800
●火災感知器・防犯/キースイッチ・非常押ボタン等は別途ご用意いただきます。(松下電工製)
●お問い合わせは……
ナショナルインターホン販売(株)
大阪市都島区中野町3-8-14 ☎352-2171
神戸営業所 神戸市葺合区御幸通2-6 〒651 電話(078)231-6141
松下通信

北から・南から　各地支部だより

同期57名が集う

千里山十八会　卒業30周年記念大会

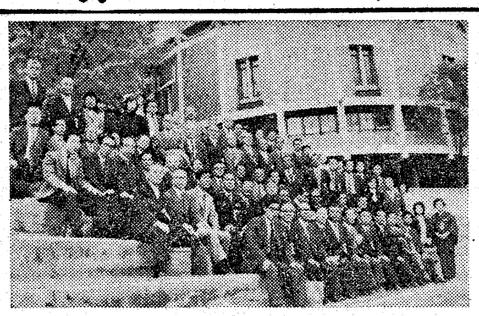
千里山十八会の「卒業30周年記念大会」は、十月二十八日午前十一時から関大会館ホールで恩師、校友会長、学長代理ら九名の来賓を迎え、同期会員のうち五十七名、同伴家族ら二十名が出席して、盛大に行われたが家族の中には、辰見君が同伴出席した故山ノ井立夫君の遺児の姿もみられた。

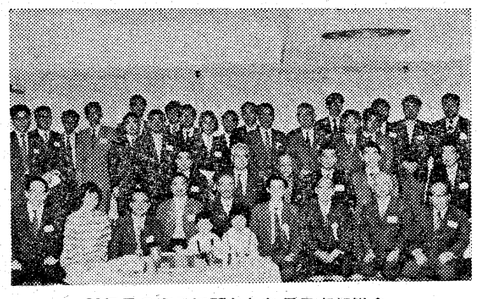
大会はまず岩波映画〝関西大学〟を上映後、記念式典を開幕、田村徳夫大会委員長＝弁護士＝は「大東亜戦争さ中に卒業した同期生三百二十名のうち、現在生存者は二百余名。死亡者の中には、多くの戦死者がある」と、戦地で荒鄭として散華の直前に会った大塚芳郎君（法科・優等で卒業）の思い出など語り、物故会員に一同黙祷を捧げたが、同伴家族の中には、夫や父の同期生への思いやりに心うたれ「きょう参加できない在天の仲間の霊に…」のことばを聞いては、こらえきれずハンカチで目頭をおさえる人もあった。

遠路、九州から出席した内山学大会副委員長＝福岡ダイハツ社長＝の閉会の辞で、式典後の懇親会に移ったが、民芸陶社長苗村七郎君、宮本恭友会々長ら同期会世話方の好意で、スシ、ソバ、オデンなどの屋台まで並ぶという、関大会館では前例のない豪華パーティー。和気あいあいの中で乾杯を重ねる中で、各務原市長平野吉八長君や北大在職の金田弘夫農博、訪ソ中の小森秀三日本高教組委員長ら、公務で参加できなかった多数会員の近況も幹事から報告された。また当年〝八十歳プラス・アルファー〟でいまも関大で英文学を教えておられる水谷先生のユーモラスな人生論もでて、聞く者に新たな生気を与えた。

一同、雨あがりの学園内を見学し、図書館前に楠を一本記念に植樹した。会員には〝三十年ぶりのヤマ〟での再会に家族とともも感慨深い記念大会の一日であった。

【当日の来賓と出席者】▼学長（代理）上林法学部長、樫本校友会長、神屋敷校友会事務局長▼恩師＝矢口孝次郎、水谷揆一、飯田正一、柳瀬義助、植田重正、和田豊二各先生。▼田村徳夫、高木義君、相見勉、水本憲庸、宮本唯男、古沢竜介、辻善一、日高良雄、寺垣内繁信、石丸武穂、榎原武雄、辰見武夫、北川清勝、藤岡哲夫、山脇智、山路義雄、秋野雅男、桜田誉、佐知年之、大鳩不二男、野村正直、大谷隆広、小山房三、内山学、橋爪富一、山本正、青山剛、藤田俊三、藤田公三、松井秀雄、多賀谷宏、芦田定男、丹後潤二、内貫元重、近沢国之、徳本博史、錦博、西明進吉、苗村七郎、水野一雄、巽義寛、鹿間康由、岩田秀義、山下章、武田英司、中井猛、宮本元太郎、竹内一男、吉田修之、福崎月夫、田村智夫、中野喜一、脇田豊一、井出清、松下逆治、中村博述、石浜欣戔。


57名の同期会員が出席して開かれた千里山一八会記念大会


36年目の吉日に開かれた伊丹支部総会

36年の歴史を誇る

伊丹支部48年度総会

兵庫県伊丹支部（安井章吾支部長）四十八年度総会は、十月二十八日の日曜、午後二時より、阪急電鉄伊丹駅前のプラザ会館「金陽閣」で開かれた。参会者四十名。

この二十八日は、当伊丹支部が三十六年前の、昭和十二年十一月二十八日に、川辺郡伊丹町三本松魚与楼で生ぶ声を挙げた吉日である。当時は、川辺郡役所の所在地であった伊丹を中心に、川西及び現宝塚市と尼崎市の一部であった川辺郡の町村を包含した、大地域支部であった。

その当時のファイルされた会場の領収書を見ると、会費は金貳円五十銭で、その内、会席膳一人前が壱円五十銭と記されている。初代佐藤清支部長から、深川重義、深川実、安井章吾に支部長がバトンタッチされ、今日に至っている。

本年度総会は、先ず支部長から諸般の校友会行事の報告があり、次に待望の伊丹支部会員名簿と、「関西大学を築いた人々」の新刊書の発行紹介があった。

講演に移り、母校工学部教授、理博、大岩正芳先生の、石油科学の花形製品「プラスチックについて」原料から製造過程、公害問題を含む講演が約一時間にわたりなされ、会員一同熱心に聴講、喝采裡に終了した。

それより、十八会々場より急ぎ駆けつけた樫本校友会長並びに藤本事務局次長の出席があり、早速、校友会長よりの祓いの話しがあった。

またアトラクションとして、伊丹市教育長、戸田電馬氏の厚意により貸し出された「伊丹市の史跡」。

寝屋川支部が誕生

京阪沿線に位置する寝屋川市在住校友の間では、数年前から校友会寝屋川支部結成について強い要望があり、これに応えるため、市役所千里会が母体となって準備をすすめ、本年六月発起人（樫本信雄、荒川虎一郎、清水貞三、今井憲夫、北村文之助、藤井昭三、北川石松、薮田勉の各氏）による設立準備会を設けて、これが結成に当ってきたのでありますが、校友会本部、関係各位ならびに会員のみなさんの協力を得て、十一月二日（金）午後六時から市内寝屋川荘で待望の「寝屋川支部」が、会員二〇名を以って誕生した。当日の出席者四十二名。

当日は母校から久井理事長、校友会本部から樫本会長、寺西組織部長、神屋敷事務局長、地元から北川寝屋川市長、また隣接の守口支部から本多支部長が出席した。

総会は土肥忠幸氏（市役所千里会）の司会で議事をすすめ、薮田勉氏から結成までの経過報告があって、会則を審議決定し、会則にもとづいて役員を左の通り選任した。

支部長＝荒川虎一郎
副支部長＝清水貞三、北村文之助、友田次朗
幹事長＝薮田勉
新支部長荒川氏の就任のあいさつ、新役員の紹介があって、来賓の北川市長、久井理事長、樫本会長、寺西組織部長、本多守口支部長等から祝辞ならびに結成までの労苦より結成後の運営の難かしさを話され、これを克服するには会員の一体感が肝要である等真情あふれるあいさつがあり、盛会裡に結成総会を終了した。

会長以下役員を改選した韓国本部秋の総会

組織の拡充強化を打ち出した鳥取支部総会

会長に李達雨氏

韓国本部73年秋の総会

同窓会韓国本部七三年秋の総会は、十月七日（日）正午から、昌徳宮統死で開いた。

このたびの総会は、全役員任期満了であり、劉載喜会長から、全役員辞任するとともに、自身は長い間にわたる神経痛持病のため、再任は固辞するとの挨拶があった。総会は劉会長の意志を尊重することとし、劉載喜会長を名誉会長に推ることを満場一致で推薦し、新役員次の通り決った。

会長　李達雨（前副会長）
副会長　唐順和（在日・重任）
〃　曹圭甲（重任）
〃　郭鷹厚（新任）
幹事長　安炳泰（重任）
幹事　鄭文一（在日・新任）
〃　姜大洪（重任）

このたびの総会は、役員の改選もあって例年よりも盛大な総会であり、学生時代の思い出に花が咲き、午後五時散会した。

当日の出席者　尹東寅　李孟熙　李鐘獅　梁鉄鎬　辺洪燦　金昌健　金万哲　姜道熙　呉徳俊　成水革　崔貴柱　金昌鉉　白巣準　朴亨寿　甲駿湜　姜泰珍ほか七名。

組織の強化へ

鳥取支部総会

創立二十三年目を迎えた鳥取支部総会は、去る十月二十一日午後六後より鳥取商工会議所三階特別室で開催。当日は終日秋雨にたたられ出足は好調とはいえなかったが、三十名の校友が集まった。

古寺善三幹事の司会で、先ず奥沢澄支部長の挨拶、次いで先般校友会代表者会議に出席した橋本喜一郎副支部長がつぶさに母校並に校友の認識を深めさせた。このあと昨年総会で新しく発足した総務、企画、親睦の各責任者よりそれぞれ報告があり、今後の運営についての座談が行われた。

このことは今回が初めてで趣味、スポーツ等のグループが近く結成することとなり総会の意気高揚、役員会も四半期毎に開き、母校の近況を探知すると共に校友へのPRと校友の動静を語り合う等の計画を約した。かくして従来に見ない和やかな、また希望に充ちた総会で時の過ぐるを知らず。

記念撮影後二階の別室に移り懇親会を開く。自己紹介と職業のPR後しばし雑談。最後に学歌を高唱して君村副支部長の音頭により母校ならびに校友会の発展を祈念して万歳三唱の上解散した。

なお支部の役員名次の如し。

▽支部長　奥沢澄　▽副支部長　橋本喜一郎　君村嗣之　樫本英夫　▽幹事長　安部誠吉

旧知、門下生150名が参会した矢口先生の古稀記念祝賀会

関大とともに46年

矢口先生の古稀記念祝賀会

去る十月二十一日午後五時からゼミナール卒業生主催による矢口先生古稀記念祝賀会が、大阪迎賓館「大閤園」に矢口孝次郎教授ご夫妻を迎えて、開催された。門下生のなかには、卒業以来諸般の事情で教授と歓談する機会を得なかったものもあり、このチャンスを待っていたとばかりに、全国から約一五〇名が参会し、中農社会学部教授の司会で開会、秋の一夜が祝賀と学生時代のなつかし憶い出をめぐる歓笑でつつまれた。

「席上まず久井理事長から古稀祝賀のあいさつ、明石学長から祝賀とともに関大の発展に尽力を惜まなかった教授の功績をたたえるあいさつがあり、そのあと本学名誉教授岡野留次郎元学長の音頭で乾杯して宴に入った。

ビールが胃の腑をうるおし、会場がなごやかなふん囲気につつまれたところで、再び各界を代表して樫本校友会長、角山榮社会経済史学会理事、和田豊二本学名誉教授（前阪南大学学長）、高木秀玄経済学部教授（現経済政治研究所長）、蔵田広造矢口ゼミ卒業生代表（㈱広島屋本店社長）の諸氏から祝辞があったほか、とびいりの祝賀のあいさつが次第に披露されて、祝宴がクライマックスに達したところで、矢口教授に京極尚一氏（大和銀行我孫子支店長）から記念品の贈呈がおこなわれ、菊代夫人には教授の高弟で本学経済学部教授荒井政治氏の令嬢から、満場の拍手のなかで花束が贈られた。

このあと、矢口教授から祝賀に対して謝辞がのべられたが、あいさつをする教授の、古稀とは思えない若々しさに、参会者一同ふたこびの気持を隠しきれない様子であった。スケジュールがひとおわって、旧師を囲んで歓談したり、握手をかわしながら再会を約束する情景がみられた。

矢口教授は、昭和三年四月関大に赴任して以来、実に四十六年間にわたって、大学とともに歩んできた「関大人」であった。ひと口に勤続四十六年といっても、関大九十年の歴史の半生を優に越す、前例のない最高記録であるほか、戦中戦後の混乱を経験した風雪の歳月であった。

その間、学内にあっては第二十二代学長、理事（二期）、短期大学部長、学部長、大学院部長、研究所長の要職を歴任、学外では日本学術会議会員（第四、六、七、八期）、社会経済学会理事・常任理事（現在顧問）、文部省各種委員として活躍した。学界では、昭和十二年に「英国社会経済史」を発表して以来、「イギリス政治経済史」、「イギリス帝国主義史論」、「イギリス封建社会経済史」（学位論文）、「資本主義成立期の研究」、「イギリス資本主義の展開」を次々と著わし、飜訳・雑誌論文を含めると枚挙に暇がない。なかでも東大の大塚教授との論争はあまりにも有名で、学会に大きな波紋を投じた。関大の「看板教授」（「朝日ジャーナル」）、「関西派の巨頭」（「経済セミナー」）と呼ばれたのもこうした業績によるものであった。

矢口教授は、目下記念事業の一環として、「イギリス帝国経済史」（東洋経済新報社）を刊行すべく編集と執筆に取組んでおり、古稀祝賀会が盛大におこなわれたのも、なるほどとうなずかれるひとときであった。

40年の跫音　昭八会記念総会とその思い出

荒川虎一郎

昭八会の40周年記念祝賀総会

四十年の年輪は著しい姿貌を社会がもたらしたと同様に当然われわれの個人の生活の上にも、著しい変化となって身辺に現実の姿において迫ってきたことは否定できない。

昭和八年春、三月白亜の殿堂関西大学で業を卒え世に巣立った当時の若者二五二名は、今年をもって四十年の星霜をけみした。健康に恵まれかつ働く歓びに感動をふくらましてはせ参じたのは十月二十六日黄昏時、箕面観光ホテルにおいて三十有余名を数えた。

かつては、人生五十年といったのであるが、いろんな視点から成程四十年はやはりかなりの歳月であり、人生における比重も相当なものである筈だ。重厚なウエイトのなかに生息してきたことは争うべくもないところである。その集った顔ぶれは、友情以外の何物もさしはさむものであってはならないし、非打算性が当然計算せられるべきである。それは純潔性と透明性がなくてはならない。お互いの関係は何物かで呼ぶ激しさはあろうがおのずからそれに明るさがなければならない。

今日の学園には創造の灯も連帯の輪もみられないとうそぶくのである。過激派セクト間の争いがきびしく、主導権をめぐるトラブルの跡をたたないという。われわれの時代では夢想だに考えられないことである。せめて学園のなかに追憶せらるるムードがクラスメートのどこかに似通っていたことは仕合せなことである。

音楽とかスポーツは暗い世相に反比例するケースが多い。当時の関大スポーツの華は野球で明治、立教、慶応、法政、早稲田など諸豪は総なめでアレヨアレヨという間に天下のファンを唖然たらしめた。本田竹蔵、中村重男（旧姓坂井）の活躍が目立ったのである。陸上では当時の大島鎌吉その他有為の人材が続出した。

われわれの母校関大は思想的中立を一応誇ったものである。ちなみにその頃、私大卒業生の就職はサッパリ――昭八会の団結の秘密はそのようなバックボーンに支えられて今日に引きつがれてきたのである。

この会の世話人の役割を果たしてくれたのに平井三郎の功績は大きい。不幸にして彼は病魔の襲うところとなったが四十年の集いを目標に一路邁進これつとめたのであるが、今夏、福岡地方を見舞った未曾有の集中豪雨に鉄砲水の災禍に追い打ちをかけられた形で打撃をもろに受け、再起が危まれている。あの頑健そのものの彼にして、しかり。健康にまさる幸福はないと今しみじみ味わっているのは筆者だけではなかろう。

当時の卒業アルバムが今机上におかれている。頁を繰ると寄せ書きのページに、私は「理屈で慰安を求めるよりは――」と頗る怪しげな筆致が残されている。こと寡面観光ホテルの会場に用意された色紙の寄せ書に「然諾」としたためたのである。顧みて、謙虚に六十四年の過去を追憶して、誠に以って忸怩たらざるものがある。私はこれから残された何年かを昭八会を通じて深い喜悦のくらしのなかに新しい光を求めたい。

いつもながらそうではあるが、とりわけ今次の昭八会四十年を寿ぐ記念の集いは大島武夫の物心にわたる運営推進に寄せる献身的な深層心理は、どれほど讃えても讃えすぎではない。

急がず休まずとゲーテはいった。シルレルの「人生は芸術である」と語った真の意味を、私は香里の小高い丘にあるわが家のささやかな書斎で交互に静かにかみしめている。

最後に「本文中敬称は省略しましたのでご了承願います。」（昭8大法学、校友会寝屋川支部長）

二つの飛鳥をたどる

――見学会ご案内

校友会事業部では、このたび第四回見学会を開催いたします。

今回は過去二回にわたり実施しました飛鳥めぐりをふまえ、高松塚古墳を含めて、二つの飛鳥＝河内と大和＝を見学し、古えの道をたどることになりました。

参加ご希望の方は、左記により受付けております。

記

▽とき　12月2日（日）午前8時半ホテル阪神前集合
▽現地案内　母校文学部教授　網干善教先生
▽行程　（河内飛鳥）叡福寺、聖徳太子御墓・推古天皇陵―小野妹子墓―（大和飛鳥）高松塚―石舞台―飛鳥寺―甘樫丘
▽会費　一、〇〇〇円（昼食代を含む）
▽申込方法　十一月二十五日必着にて住所氏名を明記の上、会費を添え関西大学校友会事務局までお申込下さい（但し先着五十名まで）

30周年を迎う

関大一八会総会

昭和十八年、専門部第一部商、経、法科の卒業生で組織する関大一八会（代表幹事、山本光雄）は、今年卒業三十周年を迎えたのを期に、第一回総会を南区の湖月で開催。四十二名が参集した。

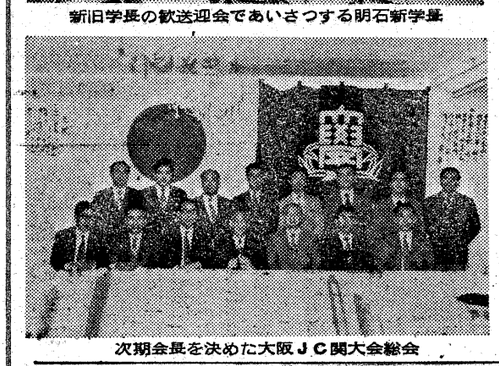
当日は、校友会から坂本龍夫副会長を来賓に迎え、また会員も東京など遠隔各地から馳せ参じ、三十年ぶりの再会を喜び合い、互いに名刺の交換、懐古談に花を咲かせ、楽しい一時をすごした。最後に、全員肩を組んで道遥歌を歌い午後八時半盛会裡に閉会した。

なお、今後は毎年一回開催の予定である。

役員は次のとおり。

▽代表幹事　山本光雄（経）▽幹事　中島利夫（商）、友野広文（商）、倉本増蔵（商）、吉岡隆俊（商）、岩城邦一（商）、来間孝（経）、山本豊（経）、滝恵一（法）、広瀬英男（法）

新旧学長の歓送迎会であいさつする明石新学長


次期会長を決めた大阪JC関大会総会

次期会長に渡辺氏

大阪JC関大会総会

大阪青年会議所関大会（片野総一郎会長）では、昭和四十八年の定時総会を十一月二日午後五時半から、北区堂ビル清文社で開催。

〝人間と社会の開発〟をめざして社会活動を続けているJCメンバーで組織した大阪青年会議所関大会は、本年二月清文社での創立総会で基盤も整い、若手経済人の集いとして注目されている。

第二回に当る今回は、開会までの約四十分を岩波映画「関西大学」で、母校のうつりかわりを上映。総会は、大島副会長を囲んでお互いに在学中を語り、またスポーツ振興を望む切実な訴えに、母校〝関大〟を愛する姿を見た。

当日役員改選が審議され、昭和四十九年の新会長に、渡辺瑤氏（昭32法卒新英産業代表取締役）を選び、三役は合議の上後日報告と決った。

また懇談会では、現在の大阪ブロックから組織の拡大をはかり、広範囲に呼びかけすることを申し合わせた。

新旧学長歓送迎会

広瀬学長は、九月末で任期をおわり、明石三郎法学部教授が十月一日から学長に就任したことは既報のとおりであるが、校友有志によって新旧学長歓送迎会を十月二十三日午後五時半からホテルプラザで開いた。出席者七十一名。

田村総務部長の司会で、校友会樫本会長から広瀬前学長が昭和四十四年本学未曾有の学園紛争に際し学長代行として、ついで学長として学園の正常化のために尽瘁せられた功績は大であり、また校友会の諸会合にはつとめて出席して校友と母校の交流に積極的な役割を果たされたことに対し深甚の謝意を表した。また明石新学長の就任に対し歓迎の意を表するとともに、学内改革等の諸懸案に対処して、折角目重目愛をねがった。

つづいて広瀬前学長に対し感謝状をおくり記念品として、京都象彦の詩絵文箱を贈呈した。

広瀬、明石新旧学長のあいさつがあって、大月伸氏の音頭で乾杯、阿部喜吉、西村治三郎、寒川喜一、吉田一郎、大島鎌吉、吉田三七雄、森田文一郎、東浦栄一、大山幸輝、一軸浩幸の諸氏からそれぞれ両先生に対し、憶い出や慰労のことば、また激励のことばを呈し、岡野衛十顧問の発声で両先生の万歳を三唱して午後八時閉会した。

寝屋川支部結成総会であいさつする樫本会長

榊原温泉で開催した昭三会懇親会

昭三会懇親会

年に一、二回の会合を開いて懇親の実を挙げている昭三会は、十月十四日の校友総会で表彰を受けた。

春の総会で決った一泊懇親会は十月二十七日田中久雄君の肝入りで、三重県榊原温泉で開催した。

当日はあいにくの雨であったが東京から戸沢武、名古屋から松広寿衛、阪神方面から明田長造、伊東太平、大井英一、大島峰太郎、阪倉久治、阪口清司、松井重一、林豊吉、それに校友会事務局の神屋敷民蔵の諸君らが地元の田中久雄君に迎えられ、大雨で水嵩の増した川の瀬音をききながら宿のいで湯にひたった。

湯上りでリラックスして開会、伊東会長から、わが昭三会がこしの校友総会で表彰されたことの報告あり、会場あっ旋の田中氏に謝意を表し、林幹事からは欠席会員の消息を聞いて開宴した。

なお来年夏は松広君の幹旋で長良川の鵜飼い見物と決った。

◇愛知支部のゴルフコンペ

昭和四十六年二月、愛知支部の有志により、親睦を目的として結成されたゴルフクラブ「千里会」では、十月十一日、快晴に恵まれた恵那峡カントリークラブ（岐阜県）に十一名が参加し伊藤国雄会長寄贈の優勝杯を争った。

戦績は次のとおり。

優勝　折口昌弘（昭17専一商）
二位　和田伊功（昭30学一法）
三位　江尻匡（昭33学二商）

短信

▼有福健氏（昭28院修法、校友会常議員）、住所が高槻市安岡寺町五一一八一九に地番変更

▼「関西大学を築いた人々」に収められ、本学の草創期に、今日の発展に力を尽した松村敏夫氏の遺族松村四郎氏より、今回の上梓を記念して、本学図書館の「聖書コレクション」へ『口語旧新約聖書・一九五五年改訳初版・口語聖書出版記念本』の寄贈があった。

因みに、松村敏夫氏は熱心なクリスチャンで、本学への寄与のみならず、大阪YMCAの理事でもあった縁故から、関西大学YMCAを通じて遺族より今回の記念寄贈となったことは意義が深い。

大島特許事務所
所主　弁理士　大島武夫
弁理士　大島一公
弁理士　藤本昇
大阪市西区江戸堀北通二丁目二十五番地（とみたビル）
電話（四四一）二一〇〇・一三九四（四四三）六一二五〇

各種鋳鋼品
橋梁高架用沓並に伸縮継手
日本鋳鋼会々員　日本海事協会認定工場
ノルウェー船級協会認定工場　ビューローベリタス船級協会認定工場
米国船級協会認定工場　ロイド船級協会認定工場
KSK
吳羽製鋼株式会社
代表取締役　森正治
大阪市西淀川区竹島町五丁目一番地
電話　大阪（471）四三三一～四番

70年の歴史と伝統を誇り
着る身になって生産する紳士服
アリエス
世界の紳士服
北川慶株式会社
大阪市東区唐物町5丁目7番地
TEL 大阪（06）251―3331（代）
支店　東京・札幌・名古屋・福岡

ビーズハンドバッグ
刺繍製品
装いに！
御贈答用に！
はしもと
島之内店（小売専門部）
大阪市御堂筋三ツ寺南3軒目
TEL.（211）2306
本店：大阪――東京店・八重洲口

冷暖房換気設備工事
給排水衛生設備工事　設計並びに施工
株式会社
大阪城口研究所
取締役社長　城口庸平
本社　大阪市北区高垣町一番地
電話　大阪三七二局七一五一番（代表）
京都出張所　京都市東山区大和大路正面上ル
電話　京都五六一局四九四四番（代表）
神戸出張所　神戸市生田区下山手通六丁目一番地
電話　神戸三四一局五八九二番

大西部の渓谷へ

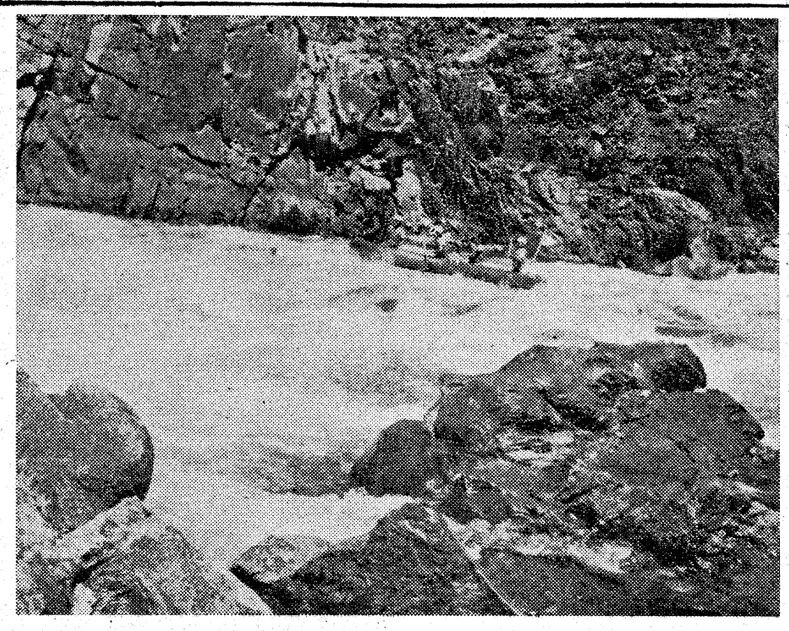
夢に見たグランドキャニオン

探検部コロラド航行記〈上〉

やっとのことで右側に寄せたと思った瞬間、白く泡立つ瀬の中へ突入していった。波しぶきで前方を見るのが不可能になる。ボートは黒っぽい銀色の巨体を左右に揺さぶり動く鯨の如く白波の中を暴れた。ボートの中のわれわれは飛ばされそうになったり、底にたたきつけられそうになったり、体のバランスをとることさえ難しい。大波に乗った。今度は滑るように波間へ、そして水しぶきをかぶりまた波の頂上へ、次第に波のスケールが小さくなり、そして終わった。その間10秒もあったであろうか。世界有数の峡谷、米国・アリゾナ州のグランドキャニオン。その中でも最も激流のラバフォール・ラピッドをわれわれはついに下り切った。

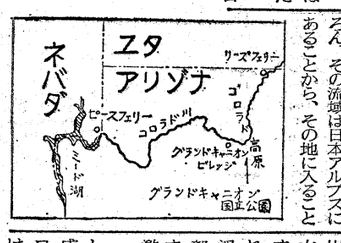
七月三十一日、二時五十七分、この日この時のためにわれわれは二年以上の歳月を費やしてきたと言っても過言ではないだろう。一九七〇年夏、関大探検部は日本最激流黒部川の完全航行に成功した。この日から我々激流探検を目指すものにとって、日本の川を下ることは、トレーニングにしかすぎなかったのである。なぜなら、黒部川は激流であるのはもちろん、その流域は日本アルプスにあることから、その地に入ることさえ困難であり、ましてや川を下ることは無理だとさえ言われていたのだ。また、この黒部川は日本三大急流、富士川、最上川、球磨川にもまして急流であり、この三大急流のうち最上、球磨の二つはすでに我々の先輩達によって下られている。そこでわれわれの頭に浮かんだものは、アメリカの大西部を刻んで流れ、グランドキャニオンの大渓谷を作ったコロラドの激流であった。

ロッキー山脈の西斜面に源を発し高原を刻み、雄大な大彫刻を形成し、カリフォルニア湾に注ぐコロラド河。今この時もコロラド河は谷を削り続けている。ビリー・ザ・キッドやジェロニモが活躍した西部開拓時代にも、そしてステゴサウルスが暴れ回った頃も、それ以前にもコロラドの流れはあった。今、その大彫刻はグランドキャニオンとして広く世界に知られている。



グランドキャニオンの激流を下る探検部のボート

泡立つ急流の中では体のバランスをとるのがやっと



コロラド航行までの足跡

- 一九七〇年夏　黒部川初航行成功
- 一九七一年春　コロラド河航行計画原案作製される
- 一九七一年夏　飛騨川航行、途中失敗
- 一九七二年春　飛騨川航行成功
- 一九七二年夏　天竜川ファルトボート航行
- 一九七二年秋　集中豪雨のため途中退脚
- 一九七三年春　四国吉野川航行成功
- 一九七三年春　木曽川日本ライン航行成功
- 一九七三年、七月三日　コロラド河遠征に出発

高度差千六百㍍

高原面からコロラド河の河岸まで高度差にして約一六〇〇㍍ありこれを峡谷間（四五〇㌔㍍）に五本ほどしかなく、明確なものは少ない。有名なグランドキャニオン・ビレッジからロバで降りられる所はブライト・エンジェル・トレイルと呼ばれ、その道は普通の人でも四時間ほどかからねば下に降りることは出来ない。峡谷間に三本だけある橋のうちの二本はそのトレイルから続き、サスペンション・ブリッジと呼ばれ、サウス・リムとノース・リムの南と北の高原を結ぶ唯一のルートであり、南北間は二十五マイル（約四〇㌔）ほどある。

厳しい許可基準

キャニオン内に一歩足を踏み入れれば、そこはもう砂漠で、水のある可能性は沢を除けばまったくなく、その沢さえ渇水期にはあてにならない。しかし、ブライト・エンジェル・トレイルには文明の力が浸透しており、途中のインディアンガーデンまでは水道の設備がある。そこと、橋のあるファントム・ランチにはレンジャー・スティションがあり、いわゆる公園監視人が常駐している。公園内に入るには外国人はパスポートを呈示すればフリーであるが、合衆国国民は途中のバスの中で、あるいはチェック地点でいくらかの金を払わねばならないことになっている。アリゾナにはいくつかのインディアン・リザベーション（居留地）が存在し、そこへの立ち入りは厳禁である。そこも許可が必要になってくる。いまだにインディアンは木毛の地に追いやられているのである。

同じように、川を下るのにも管轄の許可が必要であり、これはアメリカ人・外国人にかかわらず必要である。おまけに許可の申請に関しては、ボートのサイズ・走行形態・クルーの経験・連絡本部等を明記せねばならず、ボートのサイズに関しては、一七フィート×九フィート以上とされ、それ以下のボート、例えば、カヌー等は規定以上の母船が伴なわなければ許されない。またキャンピングにもいくつかの規制があり、場所も禁止個所が決められている。ゴミ等もすべて持ち帰らねばならないことになっている。我々はこれらすべての規定に合格し、パーミッション（許可証）を得たのであった。

一九七一年、私が入部した年以来メンバーの確保に全力を注ぎ、卒業等あるいは意欲の喪失によって離反した者も数名いたが、なんとかOB引地尚氏を筆頭に前田修氏・野村秀明・吉野福男そして私の五名の隊が編成された。その間にこの計画の発案者であった、水野善行氏を卒業によって失ったことは痛かったが、その後一九七二年、引地氏の現地偵察によって、より現実化され、我々の夢を乗せたボートは遠征という荒々しい瀬に向かって着実に進み始めたのである。

（社三・渡部里美）

関大邦楽の夕

青少年会館文化ホールで

関西大学文化会邦楽部主催の第十四回関大邦楽の夕は、十一月一日午後五時から森の宮の大阪青少年会館文化ホールで開かれ、学生市民、勤労者など七〇〇名が、日本古来の演奏を楽しんだ。

プログラムは二部、十一曲より成り、一、箏曲「摘草」、二、長唄「供双」、三、箏曲「初鶯」、四、箏曲「みだれ」、五、「尺八本曲「瀬戸の舟行」、六、長唄五絃パートを創設し、大いに飛躍したい活動を続けている。

の海」、八、長唄「越後獅子」、地唄「ままの川」、十、箏曲「春の曲」、十一、地唄「八千代獅子」である。

同部は、創立二十七年目を迎えその伝統の中にも新しいものをという方針を打ち出しており、その方針のもとにこの演奏会は行われた。現在部員総数は三十四名を数えて、尺八、箏、長唄の三パートがあるが、ここ数年は部員数も昨今の邦楽ブームを反映して増加の傾向にあり、来年度は新たに地唄三

応援団にブレザー服登場

現代学生気質を反映してか、ここ数年学生服姿の学生は減る一方であり、学生服といえば体育会、応援団というイメージが定着しているようである。

しかし、その応援団にも時代の流れか、ブレザー姿がみられることとなった。応援団にはリーダー部、親衛隊、吹奏楽の各パートがあり、それぞれ学生服を着用していたが、十月から従来のイメージをかえ、より身近な応援団として一般学生の中にとけ込んでいくため、リーダー部はブルーのブレザー（写真）を、試合などの応援時以外は着用することとなった。

しかし、ここにも女子学生の進出はめざましく、尺八パートの男子が年々減少していくのに対し、箏曲パートの女子が増加し、現在では部員総数の半数を占めている。男子の圧倒的だった昔と比べ、女子の増えたのを、OBも驚いている。（工・小松直哉）

書斎の窓 —41—

田宮武

最近、二冊の月刊雑誌のテレビ特集を読んでみると、二冊とも「テレビはファシズムか」という議論をしているのが目についた。いま放送の自由がいろいろな圧力や干渉をうけてガンジガラメになってしまって、いいたいことも自由にいえない状態になっているのではないかという、危機感がうかがわれる。放送が人びとの日常生活にドッカリと入り込んでいる事実はだれにでも明らかだが、その放送の中が自由にものいえない状態におちいっていて、しかも政府とか企業に都合のよい方向へ世論を操作したり、大衆を誘導したりしようとしている、これがファシズムだという指摘のように思われる。いわば、放送が大衆支配の道具としての性格をますます強めつつあるのではないか、という議論だと受けとれた。

◇「追跡」の放送中止と自己規制

今年の八月末に関西テレビの「追跡—汚れた天使」が同局により「放送の体質にあわない作品」と判断されて、放送中止になった事件を思い出す。この時に、唐十郎などの制作担当者の間でテレビはやっぱりファシズムだ、だからダメなんだという、批判ともアキラメともつかない発言が、あったといわれる。余談になるが、この「追跡」のフィルムが学生によって学内でも上映されたが、わたしは授業の都合でみられなかった。その後シナリオを読んだかぎりでは、テレビ局側のいう(1)アングラ的で茶の間に不向き(2)登場人物があまりにも反社会的(3)セックス描写があくどすぎるという中止理由よりも、むしろ新聞記者のイメージをこわすようなストーリー展開がきらわれたのではないかと想像する。

ところで、「追跡」の放送中止にみられるような事例はいままでに数多い。そうした事例を列挙しただけでも、一冊の本ができるのではないかといわれるほどだ。今回のようにできあがった番組を放送しない場合もあれば、番組の一部をカットしたり、シナリオを修正したりするのにとどめる場合もあるようだ。また、それ以前の番組企画の段階で、特定のテーマ、たとえば公害とかベトナム戦争とか、の問題を忌避して、取りあげないという措置がとられる場合もあると聞く。こうした放送局の内部における措置は、自己(主)規制とも企業内検閲ともよばれているが、これが放送の自由の考え方と矛盾するわけだ。

テレビはファシズムか

放送の自由と視聴者の知る権利

まず、放送の自由をどのようにとられるのか。ある特定のメディアの流す情報量が多いという量的な基準で、言論・表現の自由があると考えるべきではないと思う。たとえば、テレビ各局が毎日十八時間もの大量の放送番組を流しているから、日本のテレビは大へん自由だと思いこむわけにはいかない。放送が自由かどうかの判断基準は、放送番組の中で何が表現され、何が表現されていないのかという、質的内容にもとづいて見ていかなければならない。なかでも、その時の支配権力とか支配的価値観に対して、反対意見とか少数意見を述べたり、あるいは政府や企業にとって都合の悪い事実を伝えたりする自由が、十分に存在しているかどうかが、いちばんポイントになると思う。

ところが、過去放送局内の自己規制にあって、視聴者の目にふれなかった番組をみていくと、今述べたような反政府的な内容を含んだものが、大へん多いことに気づく。たとえば、防衛大学に合格した一人息子に、入学を思いとどまるように説得する母親を描いたドラマ「ひとばん問題になるのは、だれが最探訪」（仮題）を放送しようとしている。ただし、この番組については、長沼判決や各地の抗議運動を考慮して、放送中止にする局が続出しているといわれる。一般的にみて、民放では政府提供の広報番組、（その多くは社会教養番組のヨソオイをもったもの）を喜んで放送しようとする姿勢がみられるようだ。

◇放送の意思決定権を握るもの

このように、反政府的な内容をしばしば規制し、半面、政府のPRを考えてみるとき、いちばん問題になるのは、だれが最終的な意思決定権を持っているかという点ではないだろうか。経営者や局・部長といった管理者がこの権限を握っているいまの放送局のあり方と、テレビでは、もういいたいこともいえなくなったというテレビ・ファシズム論と関連しているように思われる。

新聞についてみると、一九四八年の「編集権声明」以来ずっと、編集にかかわる最終的決定権は、経営者と編集管理者に帰せられるものという考え方・制度が支配的である。放送にしてBS経営者がさきの「成田24時」取材中におこった成田事件にさいして、社員一同に配布した声明をみればわかる。その中に「諸君が番組を放送するに当って、個人として諸君が持っている憲法上の言論・表現の自由の権利は、わが社の基本的方針からの制限を受けねばならないということである。わが社の放送における基本的方針とは、放送法の精神と放送基準を忠実に守れということである」と述べている。これをみると、放送局の内部に働く放送ジャーナリストの、ディレクターなどの表現の自由がしばられているのかをうかがい知ることができるように思う。

ところが、この編集権の考え方は、次第にいくつかの角度から批判にさらされてきた。たとえば、岡山の山陽新聞問題もその一つだろうし、最近おこった一連の国民の知る権利をめぐる事件にも、従来の編集権の考え方の矛盾をつく批判がみられるように思う。つまり、博多駅事件をめぐるテレビニュースのフィルム提出問題でも、毎日新聞の外務省「機密」文書の取材問題でも、共通して主張されたのは、マスコミ報道機関が、国民の知る権利にこたえていく役割を果たす使命をもっているのだ。そのために、取材の自由、報道の自由が保障されなければならないのだという考え方であったかと思う。だから、ニュースフィルムを裁判所へ提出すると、今後取材が妨害される事態が起こって、国民の知る権利を充足できなくなるので、フィルムの提出命令に応じられないというのが前者の主張だった。後者では、だから、沖縄の密約を明らかにする外務省の電報を取材した西山記者の逮捕は不当だという主張であった。

◇知る権利と編集権の矛盾

わたしたちの多くは、そうした主張をかかげたテレビ局や新聞社をたのもしいとも、信頼できるとも思った。ところが、毎日新聞の態度をみていると、この事件を大きく報道している一方で、社説の中に「新聞の使命は、真実を迅速に国民に知らせることにある。そのため、あらゆる見実に接触するために全力をつくしている。もちろん、すべてを報道するとは限らない。それは報道する自由とともに、報道しない自由を持っているからである」という見解が発表されている。新聞社が「報道しない自由」ももっており、編集管理者がいろんな事情を考慮して「報道しないこと」を決定していくのであれば、知る権利はどうなるのか。知る権利はタテマエとして主張されても、実際は充足されないことになる。

したがって、編集管理者が意思決定の最終的権限をもち、同時に、国民の知る権利にこたえる使命を果たしていくのを矛盾することなく両立させるには、かれがジャーナリストとしての良心と責任感をもっている場合にかぎられるだろう。しかし、放送中止事件にみられるように政府や企業などの利益を優先するようなことになれば、知る権利は空念仏に終わってしまう。

ほんとうに国民の知る権利を実質化するには、どうしたらよいのだろうか。これからの自分の課題のひとつとして考えていきたいと思っている。

これには、家永教科書裁判の杉本判決のなかで、こどもの学習権という考え方を重視しているのが参考になると思う。こどもは歴史的事実や社会、政治、経済のしくみや自然現象についての真実を知り、学ぶ個有の権利を有すると主張し、そのこどもの学習権を出発点にして、教師の教科書選択の自由、学習指導要領にしばられない授業の自由が認められなければならないと述べていた。また、教科書内容についても明らかな誤記、誤植の訂正をこそて、文部省がその内容に立ちいる修正・削除を要求する検定制度を否定したのも、この考え方にもとづくものだと思う。これを放送の場合にあてはめるとどうなるのか、もう少し時間をかけて検討してみたいと思っている。

いまひとつは、視聴者の放送批判をくみあげていく方法について、考える必要がある。現在、民放にたいしては低俗番組批判が強いし、NHKにたいしては報道・教育番組の「右傾向」を指摘する声がある。放送批判の声はやがやがやすれば、政府による放送統制の口実として利用されやすい性質をもっているが、ほんとうに放送を視聴者の利益にあうようにしていくにはどうすればよいのか、今後研究してみたいテーマのひとつである。

（社会学部教授）

新刊紹介

末永雅雄監修『日本古代遺跡便覧』

網干善教・大川清・伊達宗泰・森浩一編集

地底に千古の謎と宝を秘める遺跡、古墳、高殿址、住居址、祭祀遺跡を研究する考古学に興味をよせる人びとは、近年とみにふえつつある。秋深たかく、青く澄んだ今日このごろ、単なるハイキングや観光にあきたりないで、こうした古跡、文化財をたずね、学びたい人は多い。

しかし、さてどこへ行こう、何をみようということになると、ハタとゆきつまるのは、案内書の乏しいことである。仏像や古建築、庭園、ふすま絵などのある古寺巡礼の手引書は多いが、考古学の遺跡案内書は、皆無にひとしかった。観光ガイド・ブック類には遺跡の名前くらいは出ていても、一体そこは、何を出土したのやら、どんな学問的意義をもつのやら、まして、どういう交通手段で訪れてよいのやら、サッパリわからなかった。本書はまさにそういう渇望にこたえる待望の書であった。

全国数十万か所にのぼる遺跡のうち、とくに重要な代表的なもの三二六か所をえらび、八十八人の学者が懇切に、しかし要領よく解説を書いている。解説は所在地、調査の経過、出土品、現状、学問的意義、参考文献、交通手段、見学の手続、すなわちどこの教育委員会に問い合わせて許可を得べきかなどが書いてある。この最後の項目は、たとえば古墳を訪れても鉄のとびらがあって鍵がかかっている。その鍵はその町村の教育委員会が保管していて、みだりに立入らせず、保護していることが多いのである。それを知らずに訪れても失望するだけである。

この便利な書物の監修者は考古学界の大御所、本学名誉教授末永雅雄博士であり、編集者四人の一人が本学の網干善教教授である。執筆者の中には、前記のお二人のほかに石野博信、藤井裕介、樫本誠一等本学出身者の名がみえる。

また遺跡の中には本学の考古学研究室が調査して来た岩橋千塚、新沢千塚、隠岐の島、玉手山古墳群、加茂遺跡、飛鳥京址その他があり、本学出版の調査報告書類が参考文献にあがっている。

考古学界は、とかく派閥がうんぬんされたり、学者間の感情的なしこりが噂される学界であるが、これだけ会国的に、多数の学者が対立や派閥をこえて協力し、この大著を完成したことは、大きな意義がある。それだけに監修、編集にあたった末永博士はじめ編集者には、いろいろ人知れぬ苦心、心労もあったであろう。

校友諸氏がこの本を小わきにかかえて、紅葉はえる秋の野山に古人の生活を探訪されんことをおすすめしたい。付録　博物館・郷土資料館一覧。

（A4版変型、総アート紙、三五一頁。定価三九〇〇円。社会思想社刊）

藤本浩一著『木地山紀行』

原田正男

わが校友であり、そして日本詩人クラブの会員として知られる藤本浩一氏が、こんど東京・角川書店から「木地山紀行」を出版、民俗学界はじめ関係すじから好評をもって迎えられていることについて、心からの敬意をささげたい。

藤氏は、さきに「菊の紋について」（のじぎく文庫）を刊行して、日本の山地からほとんど姿を消してしまったといわれる木地師の現況をありのままに訴えた。しかし、これは地域文庫の制約から兵庫県下の木地屋の記述にヒントを絞ったため、かならずしも十分なものといえなかった。このたびの「木地山紀行」は、こうした制約とならわれることなく、北は東北の遠刈田、会津から西は鹿島、熊本まで、その間、北陸、中部、山陰、四国にわたり、ひろく木地師の移動のあとを足でたずね、目でたしかめながら、のびのびとした紀行文に託しているところから、読者としての共感とともに、教示されるところがすこぶる多い。

著者が「あとがき」で「未知の世界を歩くということは楽しみ多いものであるが、「木地山」に関心を持つようになって以来十六年はとくに楽しい思い出が多い。キャラバンシュウズにリュックサックを負って歩く風来坊の私に対して、どこへ行っても好意に満ちた扱いをうけ、さまざまな形の協力を得ることができた……」とのべ、また「……「木地山紀行」は名の示すとおりで、研究の範囲まで立ち入ることをひかえたが、総合すると「木地屋」の輪郭だけは明らかにしたつもり」と、謙虚なことばをつらねているように、惟喬親王を祖神とし、近江国小椋荘から発祥したと伝えられる世にも特異な職業集団である木地師の全容を知るには、どこまでも楽しい読みものになっている。

木地師については、柳田国男氏の著作のほかさまざまの記録が発表されているが、一般にはまだ知られるところがすくない。木地師とは何だろうと首をかしげる人のために、著者が序文でのべている次の文章を最後に再録させてもらおう。

山の漂泊民のようにいう人があるけれど、果たしてそうであろうか。貴族の末であるとか、落武者の子孫であるともいわれるけれども、そのまま信じ得る事実であろうか。

古来、山間にあって器木地を作る轆轤師（ろくろし）のことを「きじや」と呼んでいて、その活動の範囲は非常に広い。（中略）そのほとんどが、国の境になる山のふところ深く、海抜六—九百㍍で人里からは三—四㌔離れた谷が多いのである。地名だけあって人の住んでいない谷に無縁墓が残っていたり、住んでいる家があっても、五戸七戸くらいが孤立している。訪ねてみると、ほとんどの人は落武者の末とか、貴族の血統らしいという。（B6三四八㌻・定価一八〇〇円・東京角川書店）

＝筆者はらだ・まさお氏は、昭3専文卒、元朝日新聞社出版局勤務＝

鈴木俊郎著『熊が授業をききに来る』

私は、最近、一冊の本を手にした。大学、職場ともに先輩である鈴木俊郎さんの著書「熊が授業をききに来る」である。鈴木さんは読売テレビ・スタジオ部長の経歴を持ち、現在は審議室参事である。

内容は、釧路の奥の阿寒高校に赴任し、そこを去るまで四年間の小冨四十五冨で構成されている。高校教師の単なる懐古談ではなく雄大な北海道の自然の中で素直に醸成されていく生徒の姿に、現今失われがちな自然と人間のふれあいが、ありありと目に浮かび、深い感動とともに一気に読了しました。まさかテレビ屋の鈴木さんが北海道の山奥で高校の先生をしていたとは知らず、本書を読んで、日常気づかなかった鈴木さんの隠れた暖かい一面—初対面の人には、とっつき難い程、き真面目な印象を与える—を知った。

なお、今回の出版の動機は雄別炭坑の廃坑でこの高校が移築されることになり、鈴木さんをしたう当時の教え子たちからの強い要望で生まれたものです。そうした関係が持続しているのも驚異ですが、この本の完成を待ち望んでいたのは、彼らだけではないでしょう。

高岡兵庫（昭36学一新）

明日を包む　レンゴー　レンゴー株式会社

特許・商標・出願全般・審判事件
日・英・米・独・仏・伊・スイス・ベルギー
中近東・東南アジア諸国・韓国等取扱
鈴木国際特許事務所
所長・弁理士　鈴木武夫
弁理士　竹田明弘
大阪市西区西長堀南通一丁目九番地（地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅中央出入口隣）藤村ビル二階
電話　大阪　〇六（五三一）七四三一〜七四三四　七四三五（所長室）

山体育館において、三チーム・二〇〇名が参加しておこなわれた。このスポーツ祭は、体育会幹部交代式をかねたもので、学生スポーツの古める位置がセミプロ化されたものから次第に若手本来のものへと移行しつつある現在、一般学友も共に一日を過ごそうとの目的で、より大衆的な、広範なスポーツとして「バレーボール」を種目にえらびおこなった。

バレーボールに30チームが参加
◆二部スポーツ祭

関西大学二部体育会主催の第四回スポーツ祭バレーボール大会は十一月三日午前九時半から、千里戦績は次のとおり。

一位・バレー愛好会、二位・あしのはクラブ、三位・剣道。

四十九年度二部体育会役員は次のとおり。

本部長　小浜純郎（経三）、副本部長　小野展弘（社三）、藤木利明（法三）、総務部長　正木但（経三）

弁理士試験合格者

昭和四十八年度の弁理士試験合格者は次のとおり。

大島　泰雅（昭41学一法）
京口　清（昭41学一法）

公認会計士試験合格者

昭和四十八年度の公認会計士試験合格者は次のとおり。

広瀬　季永（昭44学一商）
園木　宏（昭45学一経）
成瀬　幹夫（昭46学一経）
小野　員人（昭47学一商）
杉本　偉（商4年在学）
前田　雅行（二商3年在学）

日本珈琲貿易株式会社
取締役社長　武田佳次
主要取扱い商品
コーヒー豆・紅茶・ココア・3Mジュース
輸入瓶缶詰・乾果物
西ドイツ製〝プロバット〟コーヒー焙煎機ならびに附属品
西ドイツ製〝メリタ〟コーヒー紅茶抽出器他
本社　大阪市南区横堀七丁目二十三番地
TEL　大阪251—5858（代表）
支店　東京・名古屋・福岡

時の流れと深い知恵が育てた
ハウスブレンドスペシャル
ハウス食品工業株式会社
たしかなものをつくるために——
味のいのちを生み出すために……
ハウスが心をこめてブレンドしました。
ゆっくりとゆっくりとブレンド＆ブレンド。
ハウスだからできたカレーです。

価格……(125g) 120円
Specialという言葉を私たちはこのカレーのためにとっておきました　新発売
ハウスブレンドスペシャル

季節一品料理
てっちり
すっぽん料理
割烹
北多八
安岡幹雄
（昭和23年専経卒）
大阪市北区曽根崎新地1丁目24番地
・TEL 345—2628

パーラー　アストリア
ASTORIA
コンパ、忘年会、その他各種パーテーをご予算に応じ承ります。
山下ビル株式会社
大阪市東区本町4丁目9番2号
〒541　電話(262)0665(代)
代表取締役　山下修身

各種ビニール系タイル
ゴムタイル・リノタイル
カーテン・絨緞
天井・壁張施工
朝日商事株式会社
大阪市北区中崎町八六の四
電話大阪(371)四六六二(代)

訪中点描

高松塚の文様見たり

網干善教

高松塚古墳で壁画発掘以来、中国唐代の壁画墳との比較が重視された。飛鳥に育ち、飛鳥で研究をすすめる私にとって、機会があれば飛鳥から天平文化の源流の地、中国を訪れ、古代中国の文物を実際に見学したいと念願していたところ、今回中国人民対外友好協会の招請により、日本中国文化交流協会代表団の一員として訪中し、北京・西安付近の中国の遺跡や出土文物に接することができた。

北京に遊ぶ

新たなる国の都の空冴えて天安門に紅旗はためく

北京市の中央、幅員百㍍もあろうかと思われる西長安通り、それに面して新中国の象徴である天安門とその広場、人民大会堂、相対する中国革命博物館など中軸的な建物が並ぶ。

故宮の入口に悠然と聳える天安門。その左右に各々四本の大紅旗が青空に翻翻とはためいている。

第二十四回国慶節慶祝の前夜である。

アカシヤの並木は遥（はる）か地に果てぬ北京の街の夕映えるとき

中国の並木は実に美しい。都市でも田舎でも、道路の両側にアカシヤや柳の並木が延々と続く。しかも非常によく手入れされている広大な領土、その並木が、スモッグのない秋の夕日に映えて、地平線の彼方にのびる。

緑が一段とさえる。

明清の王宮なりし紫禁城際立つ色

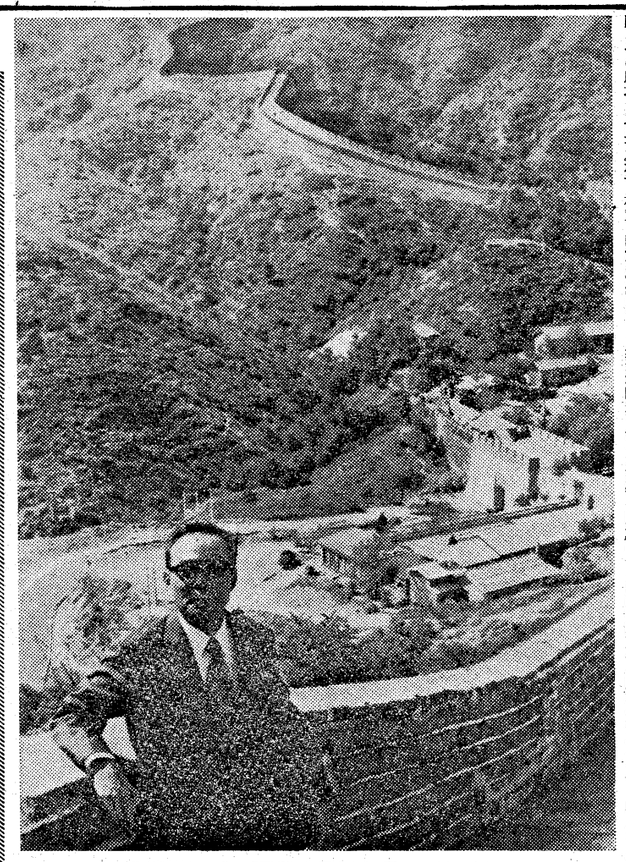
故宮を巡る

綺爛なる雄大なりき空高く故宮の甍（いらか）波うねりけり

故宮は明・清代の王宮紫禁城である。今はこの王宮を故宮博物院と称し、一般に公開されている。明の永楽四年(一四〇六年)に着工し、永楽十八年にほぼ完成した。約十五年の歳月をかけて建築されたものである。

敷地面積約七二万平方㍍、建物の間数約九千室、前部は太和殿・中和殿・保和殿を中心とし、後部には乾清宮・坤寧宮などの六宮やそのほか多くの建物がある。

そのなかの一つの建物、乾寧宮では出土物を展覧している。目を見はるばかり、豪華絢爛、壮大な建物、展示品でこれは中国文化に眩ぶしき光ゆ



八達嶺にて、万里の長城を見る（筆者）

の偉大さを感じる。すべてを見るには旬日を要するであろう。

長城を眺む

山を這い谷（たに）を渡りて万里征く長城を見つ八達嶺に

延々何百㌔、過去中国は北からの敵を防ぐため莫大な労力と資源を費して長城を築いた。そのために国家も人民も疲弊し、乱世、亡国のみちを辿ったこともあった。

八達嶺（はったつれい）は北京西北郊にある長城の関で、ここには有名な居庸関（きょうかん）がある。九月二十九日、私の誕生日、八達嶺にて雄大な長城を眺めた。

雲一つなき秋空や長城の背面（そとも）はただに茫漠の原

長城に登った。北側に拡がる拡大な平原、内モンゴルに続く。まさに茫漠たる景観である。

居庸関を見る。壁に刻まれた異国の文字。古しえ多くの人たちがこれを見て往来したであろう。

今も隊商がここを通うのであろう。駱駝が群をなしているのを見た。異国の風情である。

定陵に入る

白光る大理石にて築かれし地下宮殿の定陵に入る

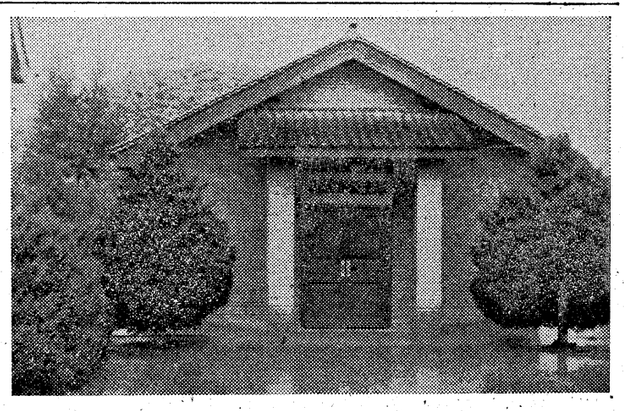
厚葬の極みをつくし輪（おご）りたる顕皇帝の定陵ぞこれ

定陵（ていりょう）は明十三陵の一つ。第十三代神宗顕皇帝の陵墓である。神宗は萬歴帝ともいい、在位は一五七三年から一六一九年の四十六年間に及ぶ。わが国についていえば天正から文禄・慶長・元和に及ぶ時代である。いわば織田信長・豊臣秀吉、徳川家康の活躍した時代であった。

この神宗皇帝の陵は昭和三十一年から三十三年にかけて発掘が行われた。

深さ地下二十七㍍、大理石で築かれた墓室は長さ約八十七㍍、幅四十七㍍、三室にわかれ、室内の面積は約千二百平方㍍に及ぶ豪壮なものである。定陵博物館に保存陳列されている王冠をはじめ、顕皇帝と二人の皇后の遺品は、さすが明王朝の皇帝にふさわしい豪華なものである。

ここには定陵をふくめて十三の王陵がある。周囲山に囲まれた王陵の盆地ともいうべきか。陵墓にいたる間には大理石の大門や陪臣、石獣の彫刻が並んでいる。



悲劇の皇女の眠る地下宮殿入口

周口店を見る

最古なる北京猿人埋（う）もれいし周口店の深き洞窟

石灰岩巨（おお）き洞窟猿人の褥家なりしかその化石出ず

私たちは北京原人（Sinanthropus. Pekinensis）と呼ぶが、中国では「北京猿人」と称している。

北京猿人。それは世界最古の人類の化石である。一九二八年（昭和三年）北京の西南約五〇㌔の周口店の洞窟で出土した。

一九一四年（大正三年）スエーデンの考古学者アンダーソン博士が中国に渡り、ツダンスキー博士・裴文中博士らの努力によって遂に世界最古の洪積世人類の化石をこの周口店猿人洞で発掘した。

北京猿人の資料は所在が判らず、謎につつまれている。中国科学者はその後も発掘調査を続けて大きな成果を挙げている。周口店の現地には「北京猿人展覧館」も完成し、最近発掘された陝西省藍田猿人の小云南省元謀猿人の資料写真も展示されている。

盧溝橋を渡る

周口店から帰途、盧溝橋を渡る。橋の欄干は大理石でつくられその一つ一つに獅子像が刻まれている。また橋のたもとには清高宗（乾隆帝）の筆になる「盧溝晩月」と刻まれた立派な碑が立っている。

欄干に並び座しける獅子像は相似る如く似しものもなし

乾隆帝川の傍（ほとり）に晩の風清の月を眺むと刻む

一九三七年七月七日、この橋の付近で響いた一発の銃声、それは無惨にも日本の大陸侵略の導火線となった。そして多大なる人命と資源に大きな被害を与えてしまった。「戦争は罪悪であり、二度と再び繰りかえしてはならない」。一切我今皆懺悔。

西安に想う

飛鳥代にここに渡りし遣隋使西安街に佇（た）ちてしのびつ

陝西省（せんせい）西安市は、その昔、隋唐の都長安であった。町の周囲を高い城壁で囲む。もちろん今の西安市はかつての長安京の四分の一程度しかない。そう考えてみると、長安京が如何に広大であったかしのばれる。遣隋使や遣唐使はこの長安に訪れ、すぐれた文化に接した。文革中の考古学調査の成果として旧長安京内より相同開掘が出土した。遣唐使の人たちが持ってきたものである。

飛鳥、白鳳、天平の文化の源流はこの長安にある。

悠久の歴史とともに流れ逝く調水（いすい）の河の黄濁の色

世界四古代文明の一つに数えられる中国古代文明発祥の地は、黄河の流域である。「黄河を治めるものは天下を制す」。このような話は中学生の頃から何回となく教えられた。「黄河の水は黄色い。だから黄河という」とか。

西安から延安に向う途中、低空の飛行機の窓から眺める黄河、延々蛇行の大河。本当に黄濁の帯である。

西安から咸陽へ向うとき、黄河の支流、渭水を渡った。支流といっても大河である。長安はこの傍りにある。中国の政治、文化の歴史は、この渭水を想わずには語れない。そこには悠久の流れがある。

四方の大路今日雨がすむ鐘楼に登り来て瞰（みま）し城壁の街

西安は四周城壁の囲まれた街である。四方に巨大な城門がのこる。城門からの大路は十文字に交差する。この交差点に鐘楼が建つ。明清代、この鐘を撞いて時を告げたという。

西安を訪れたとき、あいにく雨であった。西安雨情、鐘楼に対する一きわ大きな建物跡もみえる。遠くかすんで見えるのは慈恩寺の大雁塔であろうか。

大雁塔に昇る

遠つ世に玄奘法師所覧の慈恩の大塔天に聳えて

慈恩寺の玄奘を大雁塔という。これはその西北にある薦福寺の小雁塔に対する。西安に着いたその日のうち見学に案内された。

高さ六十五㍍、七層の大塔は塼（レンガ）を積み重ねた建築である。慈恩寺はかつて玄奘三蔵がここで仏典を翻訳した因縁ある寺院であるとともに、大雁塔は中国における代表的建築としてつとに知られているものである。

最上層に登る。絶景な関中大平原。ただし雨のためあまり眺望きかず。残念なり。また来る日を期待せんかな。

長安に慈恩寺ありて塼築の塔に新羅の芬皇寺（ふんこうじ）想う

塼築の大塔。それをみてふと新羅の都慶州芬皇寺の塼築の大塔を想い出した。最近三回ばかり芬皇寺を訪れた。戦火のために上層を失っているが、かつて壮大な姿を示していた芬皇大寺の層塔。共に同じ時代のものである。そしてかつて飛鳥寺・川原寺、橘寺や大官大寺など飛鳥の都に林立していた飛鳥諸大寺のありし日の面影を想像した。塔だけを建立したと伝えられる大野北丘の塔。古代文化は命脈と連っていることを感じた。

窓狭く鈍（にぶ）き光に読み取りし碑の名筆は力こもれり

竜朔（りゅうさく）の紀年刻みし石碑（いしぶみ）に高松塚の文様みたり

陝西は旧都だけに遺跡が多い。当時多数の石碑が随所に建立されていた。著名な文人が撰文し、名筆の書家が書き、そして名工によって、彫まれた碑である。

宋の呂大忠はこの碑が時と共に散逸するのを憂い、文廟すなわち孔子廟に集めた。これが碑林であり、現在六室に約二千基の碑があるという。いずれも名文、名筆である。

碑林に読む

陝西は旧都だけに遺跡が多い。当時多数の石碑が随所に建立されていた。著名な文人が撰文し、名筆の書家が書き、そして名工によって、彫まれた碑である

宋の呂大忠はこの碑が時と共に散逸するのを憂い、文廟すなわち孔子廟に集めた。これが碑林であり、現在六室に約二千基の碑があるという。いずれも名文、名筆である。

林立つ碑林、その一基を見て驚いた。高さ四㍍もあろうか碑の側面に、高松塚古墳で出土した透金具と同じ系譜の文様が、細い線で刻まれている。

碑は唐代の著名な政治家であり名筆家であった褚遂良（ちょすいりょう）の筆になる。「大唐三蔵聖教之碑」龍朔三年という紀年が刻まれている。龍朔は唐高宗の時代で、西暦六六三年にあたる。日本では中大兄皇子が百済救援軍を送り、白村江の戦で敗れたときであった。飛鳥と長安、そこには太い絆があった。

半坡博物館を視る

原始代の住居も漢もありしま覆屋

展示品、なかには発掘されたままの古代住居跡や講遺構、出土品がそのまま展示されている。長い見学通路をめぐる。一つ一つに丁寧な解説がつけられている。

展示場には約三千点あまりの出土品がある。土器に魚の文様があるのが特徴であった。

華清池に浴す

温山（れいざん）の麓に湧きし華清池（かせいち）の湯けむりに顕（た）つ楊貴妃の面（おも）

西安市の東方約三〇㌔温山の麓には四十三度の温湯が湧いている。

唐の昔、玄宗皇帝は絶世の美人といわれた楊貴妃をつれて、毎年九月から十月にかけてここに遊んだ。飛霜殿は王と妃の寝室であり、九龍湯は玄宗の風呂、貴妃湯は楊貴妃の風呂と伝えられる。すすめられて入浴してみたが少し肌寒く感じた。

ここはまた一九三六年十二月十二日の有名な西安事変の起った土地でもある。壁に弾丸のあとがのこっていた。

永泰公主墓を訪ねて

鮮やかな壁画で飾る唐つ世の悲劇の姫の眠りける墓

奥深き地下宮殿の墓室（はかむろ）に侍女の群像並び描かれ

永泰公主墓は唐代の壁画墓として知られている。高松塚古墳を発掘したとき、この壁画との比較が重要な課題となった。

永泰公主は唐中宗の第七皇女であり、則天武后の孫娘にあたる。武延基に嫁いだが、則天武后にいらまれて、七七歳の若き命を絶った。死因は自殺説と難産説とがあるが詳らかでない。

父中宗は則天武后のために一時廃帝となったが、武后の死後再び即位した。そして武后のために哀れな死をとげた肉親の墓を乾陵（けんりょう）の傍に築造した。今も西安西郊乾県にはこの時の十七基の墓が陪塚として存在している。永泰公主墓はそのうちの一基である。

一九六〇年（昭和三十五年）から六二年にかけて発掘調査が行われた。深さ約十七㍍、墓室の長さ約八七㍍、まさに地下宮殿である。豪壮な石槨、そこに彫刻されたきらびやかな文様、墓室や甬道（ようどう）には三十三幅の壁画が描かれている。甬道に置かれた一対四方ほどの墓誌、見事な墓である。

遥かなり関中（かんちゅう）の原乾陵（けんりょう）に章懐・懿徳（しょうかい・いとく）遠くかすみて

高宗と則天武后の陵を乾陵という。章懐太子李賢は父が高宗、母は則天武后は姉の子である。長じて自分が武后の子でなく姉の子であることを知って、武后にそむいた。そのため殺されたという。懿徳太子重潤は中宗の第二皇子、則天武后の孫にあたる。永泰公主とは兄妹の関係である。七〇一年やはり則天武后のために殺害された。時に年十九。父中宗は神龍二年（七〇六年）ここに移葬した。

章懐・懿徳両太子墓は一九七二年発掘された。ちょうど私たちが高松塚古墳を発掘していたときである。そしてこの両太子墓には立派な壁画のあることが後に報道された。

章懐太子墓は長さ七一㍍、五〇幅の壁画があり、懿徳太子墓は長さ約百㍍の地下宮殿、四〇幅の壁画が描かれているという。内部はまだ見学を許されない。「来年あたりには見てもらえるだろう」という。

今年の夏から秋にかけて東京と京都で「中国出土文物展」が盛大に開催された。その陳列品のうち、この両太子墓の壁画の一部が出品された。陝西省博物館には今年から両太子墓壁画の原寸模写を陳列する特別の部屋が公開された。実にすばらしい壁画である。圧巻というべきか。

永泰公主墓に立つと三・五㍍はなれた乾陵、そして左に一㌔離れて章懐太子墓、右にやはり一㌔離れて懿徳太子墓が並ぶ。陪塚というても日本の古墳とはスケールが違う。

このあたりは関中平原という。果てしなく続く大平原、そのなかにある乾陵と十七基の陪塚、それは無限なる風景である。

偉大なる古代中国の文化。是非もう一度訪れて、心ゆくまで遺跡や文物に接してみたい。

私たちをあたたかく迎えて下さった中国人民の方々。謝謝！

（私は歌人ではない。歌心もない。全くの素人である。ただ旅の宿にてつれづれなるままに感想を書きとめたものである）

（文学部教授）

伝統の50回大会

陸対法大上

私学では最古の対校戦

KUのマークをつけた十七人がHのマークの八十人を相手に走りそして跳び、投げた。が、関大は健闘むなしく、法大に35・5―115・5の大差で敗れた―十月六日、曇り空の大阪・長居競技場で行われた関大対法大陸上競技対校戦の結果である。通算戦績は関大の21勝20敗9中止。

ことしの対法大戦は迎えて五十回目だった。学生陸上界では現存する対校戦の中で、東大―京大戦と並んで最も古い歴史を持つ大会。私学同士なら、早慶戦の四十九回を上回っている。半世紀を数えた記念大会とあって、試合前日はOB同士の親ぼくゴルフ、当日はOB対抗八百㍍リレーがプログラムに加えられ、大会終了後に記念パーティーと例年にない盛りだくさんの行事が繰り込まれた。

「第二次世界大戦・敗戦後の泥沼の貧困と、独立への苦もんの経験。その間、技術革新の進歩は思想、文化、社会、政治、経済を根こそぎ変革し、旧制度や機構は次々と崩れ去りました。第2次産業革命の嵐が日本列島を荒々しく吹きまくったのです。陸上競技の世界もこの嵐の中で浮沈興亡し、幾つかの伝統や歴史が吹き飛ばされました。その中で関法戦はいまなお生命のリズムを打ちつづけている奇蹟的な生存者なのです」（抜すい）と、関大陸友会の大島鎌吉会長（大体大副学長）はあいさつで述べている。これに対して関西の他大学のOBから多数の祝辞が寄せられたが、いずれも大島会長のいう〝奇蹟的な寿命の長さ〟に敬意をはらっている。

一口に半世紀というが、五十年の歳月は長い。第一回大会の幕あけは大正十三年五月三十一日だった。場所はいまは姿を消している大阪市立運動場（築港）。1点を争うクロスゲームのすえ、最後のリレーに勝敗の行くえを持ち込んだ。このリレーだが、法大側は短距離中心の四百㍍リレーを希望し関大の方は中距離主体の千六百㍍リレーを主張して譲らず、結局、両校のいい分を半々にして、四人の走者がそれぞれ二百㍍、四百㍍、八百㍍、二百㍍づつを走るスウェーデン式の千六百㍍リレーにしたという因縁つきのものだ。応援団も必死の応援で、スタートからゴールまで、エキサイトしたという。レースの内容も実力伯仲で接戦だった。関大は第一走者から花谷猛（昭和五年卒）金田格（大正十四年卒）岸源左右衛門（昭和三年卒）福田義美（同六年卒）のオーダーを組んだが、花谷から福田まで少差のまま法大を抑え切った。日本新という立派なおまけまでつけて。得点はリレーの勝利がものをいって、32・5―30・5と、2点差で関大が優勝した。

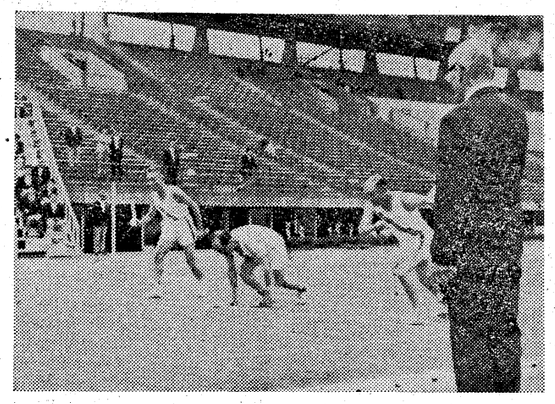
第一回の船出を劇的なレースのすえ手中に収めたリレーメンバーのうち、いまだ健在なのは、金田格だけで、あと三人は他界されているが、そこにも五十年の歳月の流れが感じられる。（金田格は大正十一年の第六回極東大阪大会、元関大勤務の岸源左右衛門は同十四年の第七回極東マニラ大会、昭和二、五年の極東上海、東京各大会へ出場）

さて舞台は変わって今回の五十回大会。第一回とはうって変わった点差での大敗。部長の雷井義正教授も出席して下さったが、期待にこたえることができなかった。11種目のうち、関大の1位は走り幅跳びで7㍍05を跳んだ田畑治通（49年度主将）だけの寂しさ。やっと最後のOB戦八百㍍リレーに圧勝して、うっぷんを晴らしたにすぎなかった。

入学難からくる部員確保のむづかしさの中で、四倍近い層の厚さの法大を相手に、関大の現役はよくやったというべきだろう。が、一人でも〝十人の敵を倒す〟気迫に欠けていたのはいなめない。これは対法大戦における陸上部だけに限らず、あらゆる体育会の傾向だ。「部員が少なく、部の生意気ばかりされる」現状はわかるがそのことをタテに何か甘えている風潮があるのは確かである。

苦言はさておき、関法戦は百回目に向かって、新しいスタートを切った。（文中、選手名は尊称略）

力武 敏昌（昭34学一新）陸上競技部OB・現神戸新聞運動部



両校OB対抗800㍍リレーのスタート

移転

▽阿部昌三（昭41学工機）芦屋市 翠ケ丘一九―一一―〇七
▽東井安彦（昭45学経）宝塚市 山本野里一丁目一一一
▽有元和之（昭44学法）神戸市 東灘区深江北町三丁目一一番
▽井上正（昭27短二）豊中市新千里北町三―一―一第三団地C三五―一〇三
▽井上武一（昭39学二商）四日市市大字羽津甲五八の二
▽市田敏治（昭25学二商）池田市 畑町五四六―一石登住宅七―四〇三
▽池田武史（昭36学二法）枚方市 上野二―八―七三―一〇四
▽稲垣偵一（昭41学二法）市川市 原田一二七中村荘
▽岩田年之助（昭27学二商・昭32院博経）摂津市千里丘一―三―一一
▽内部月弘和（昭46学工応）京都市 東山区本町一五丁目三八八―二〇
▽内田英昭（昭38学二法）大東市 臥雲荘一二号
▽内田勝利（昭42学二法）北九州市 御供田一―五―四
▽坂口勝利（昭42学二法）堺市 小川弘之（昭44学二商）摂津市
▽小野勝更（昭25学二法）神戸市 正雀三―六―一〇昭和ハイツ
▽岡部哉慧（昭44学機二）広島市 東町四丁目二番三号
▽岡田治（昭34学二経）奈良県磯城郡三宅村屏風二七―五三
▽岡田光弘（昭35学二英）豊中市 新千里北町一―一〇三―一〇二
▽亀井磨（昭32学二法）吹田市 山田下二二―二A七―二〇三
▽沖田裕（昭41学二史）川西市 東能勢町西内三〇―一六
▽奥川英樹（昭41学二史）川西市 己奏上三丁目一一番一号
▽亀井磨（昭32学二法）吹田市 山田下二二―二A七―二〇三
▽大田慎三（大11専法）芦屋市岩国町一〇―六―一〇三
▽岡田治（昭34学二経）奈良県磯城郡三宅村屏風二七―五三
▽岡田光弘（昭35学二英）豊中市 新千里北町一―一〇三―一〇二
▽岡部哉慧（昭44学機二）広島市 東町四丁目二番三号
▽亀井磨（昭32学二法）吹田市 山田下二二―二A七―二〇三
▽奥川英樹（昭41学二史）川西市 己奏上三丁目